



第1章 出発

去年の夏、奥さんと二人で北ウェールズ・・・「イギリスの紀伊半島」的ヘキ地・・・に行ってきました。ジツに新婚旅行以来です。なんでそんなマイナーなところに、というと、私はあの便利なパック旅行というモノが嫌いで、現地人より日本人のほうが多そうな流行観光地も嫌いで、ワタシ的にはヴィレール・ボカージュとかヴェルダン要塞跡ですが、奥さんがそんなものに同意するはずがなく、世界遺産の古城が数珠つなぎ状にあり、奥さんは「お城」が大好きなので、ここなら説得可能かもしれない、と。

奥さんははじめ難色を示しました。城の写真を見せると「カワイくない」というのです。困った私は、城郭というものはがんらい軍事施設であり、カワイイ軍事施設をと言われても、と抗弁しましたが、奥さんは「それはモノのワレを解さないアラエビスの発想だ」と言ってちっとも動じません。ここで幸い<英国有数の庭園>「ポドナント・ガーデン」を発見。イングリッシュ・ガーデン(も)大好きな奥さんは、急転直下OKしました。やったね。

で どうやって行くんだ？ ウェールズ入りの旅行プランなんて(日本には)全然ないことが、すぐにわかりました。自力しかありません。頼りはガイドブック(わずか数ページ分)と、ミシュランのマップと、ネットだけ……ところがネット社会おそるべし。列車時刻表からモノ好き

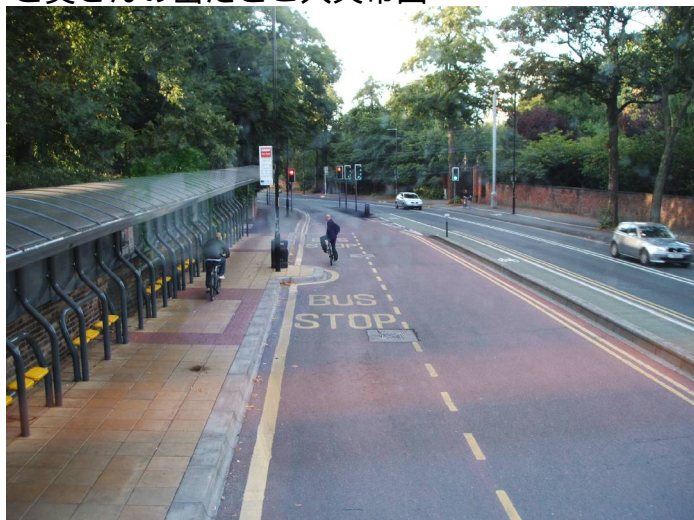
バスはゆく、ウェールズ。

光成クンと奥さんの出たところ大英帝国

(いるのね)の体験ブログまでずらずら出てきます。小さな町の小さなB&B(寝室+朝食の「民宿」みたいな)さえ全部ネット予約できました。

最寄りの国際空港はマンチェスター。(不正解。ロンドンから直行する特急列車があり、片道で半日以上トクでした。)日本からの直行便がなく、アムステルダムで2時間待って乗り換え。この国際ローカル線?には、英国紳士ほぼ皆無、フーリガン風ばっか。ボーイジョージ風のお兄さん、元ボーイジョージ風のおぢさん、ルーニー風のお兄さん、元ルーニー風のおぢさん、～に各お似合いのおねいさん及びおばさん。しかも半袖の人だと、30%くらいの確率で腕のタトゥーがちらちら見えます。入国前からすでに裏大英帝国です。

マンチェスター空港着。下調べによると、空港から町まで鉄道がありません。ところが、ロビーに駅の案内板が見えません。表に出てもわかりません。シャトルバスもありません。パニック1。インフォメーションに引き返して尋ねると、「空港ビルの端っこまで行ったら案内板がある」と(ないし、たぶん似たようなことを)言うではありませんか。端っこまで行くと、案内板、ありました。「駅はこの外だ」と書いてあります。出ると確かに「動く歩道」があり、乗っていると駅ビルに着くのですが・・・遠いし!ほとんど人いないし!おまけに駅に切符売り場が見当たりません。パニック2。駅ビルのそばから出ている路線バス



に切り替えました。(翌日わかったんですが、イギリスの鉄道って改札がなく車内で切符買うから、切符売り場っていらぬのね。)しかし、航空と地上公共交通との連携をなんと考えとるんだらうね。マンチェスター減点3。

バスは当然のように2階建て。スーツケース引きずって(コドモか)2階席の最前列へ。車内の掃除がなっとりませんでしたがね。バスはあっちに曲がったりこっちに寄ったり。イギリスの路線バスはこの点が極端です。運行時間は長くなっても、客は全部拾うんだ!結局、市中心部まで1時間。

高台にある空港から下界に下りていくのですが、ほとんどバスレーンがあって、渋滞しません。でもなんか道路標識がヘンです。「Buss & Camera」と書いてあります。バス&カメラ?なんのこっちゃ?よく見ると「will be prosecuted(起訴されるぞ)」云々、ちっちゃい監視カメラらしきものがのっかっています。恐るべし大英帝国、バスレーンを走行する不屈者は問答無用で撮影されて罰金を食らうのです。でも写真のとおり自転車は平気で抜きつ抜かれつ(下り坂なのでいい勝負)。マンチェスター、得点1(そうなのか?)。